

川湊灯台

江戸時代（1603～1867 年）後期、美濃の商人町として栄えた長良川の港、上有知湊（こうずちみなと）の跡地に建つ木造灯台。上有知湊は、17 世紀初頭に、武士の金森長近（1524～1608 年）が建造しました。金森は美濃の北の山間部、飛騨地方を治め、1600 年の関ヶ原の戦いで徳川家康に協力した褒美に美濃市（当時は上有知）周辺の土地を与えられました。徳川軍の決定的な勝利は 100 年も続いた日本の内戦と社会的混乱に終止符を打ち、徳川幕府のもと日本は統一されることとなりました。

貴重な輸送の要衝

飛騨の木材、関の刃物、美濃の和紙などさまざまな材料や製品が上有知湊で積み込まれ、下流の卸問屋のもとへ輸送され、そこから大阪や京都などの大都市の市場へと運ばれました。1911 年に美濃と岐阜を結ぶ鉄道が開通するまで、この港には 40 隻の川船が停泊し、交通の要衝として栄えました。内陸の山間部を走る輸送路と比べ、河川は三重県の伊勢湾に面した海港へ多くの物資をより速やかに輸送することができました。

川湊灯台

特に大雨の後、長良川のあちこちで急流が発生し、命にかかわるほど危険な状態でした。住吉神社は、江戸時代（1603～1867 年）に、川商人たちの航海の安全を祈願して建てられた神社です。住吉神社前の川岸に建つ川湊灯台は、船の道しるべとして、また住吉神社の位置を示すための灯台です。この木造の灯台は江戸時代後期に建てられたもので、今でも稼働しています。石造りの土台の上に立ち、高さは 9 メートルあります。灯台から玉石の敷かれた階段を下りると、かつての係船場に出ます。階段の上にある 2 つの大きな石灯籠は、19 世紀初めに置かれたものです。

美濃橋と小倉山（おぐらやま）城

灯台から数分歩くと、赤い吊り橋が川に架かっています。美濃橋は、1916 年に完成した現存する日本最古の近代的吊り橋です。建設当時、日本では最も長いつり橋の一つで、その長さは 116 メートルあります。1960 年代以降は、車の進入が禁止となり、歩行者・自転車専用となっています。

美濃橋は、金森長近（1524～1608 年）の隠居所として 1601 年に小倉山に築かれた旧小倉山城の麓に位置しています。金森はそのわずか 7 年後に亡くなり、唯一の嫡男である長光も

1611 年に 7 歳で亡くなって、金森家の血筋は途絶えました。跡継ぎがいなければ、残された家族は武家としての社会的地位を失うこととなり、土地を捨てる他ありませんでした。小倉山の山頂にある展望台からは、川と美濃市街を一望することができます。